

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07296249 A**

(43) Date of publication of application: **10.11.95**

(51) Int. Cl.

**G07F 19/00**  
**G06F 19/00**

(21) Application number: **06083058**

(22) Date of filing: **21.04.94**

(71) Applicant: **HITACHI LTD**

(72) Inventor:  
**ISHIGURO SHOSUKE**  
**ONISHI TAKESHI**  
**ABE HIROYUKI**

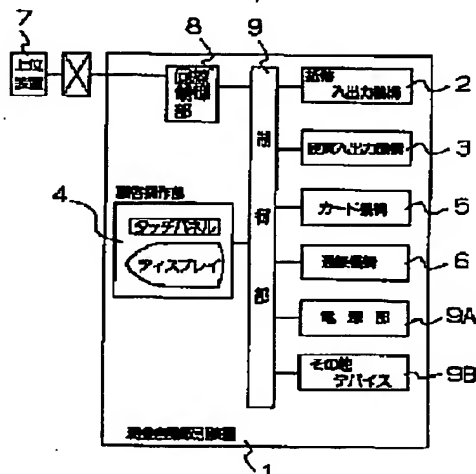
**(54) AUTOMATIC TELLER MACHINE**

**(57) Abstract:**

**PURPOSE:** To reduce the time required for user by adopting such a configuration that a control section executes deposition, payment and transfer altogether in one transaction among plural bank accounts in on-line connection.

**CONSTITUTION:** A control section 9 is configured so that the transaction with other bank account can be performed based on one account and transaction among plural bank accounts can be executed. That is, when a transaction is executed among plural accounts, the control section 9 revises a content displayed on a customer operation section 4 and the user makes operation based on the revised content. Thus, the control section 9 realizes the transfer from one account into other plural accounts, and payment from plural accounts to other one account in one transaction simultaneously altogether and executes transfer, deposit and payment among plural accounts simultaneously in one transaction altogether.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-296249

(43)公開日 平成7年(1995)11月10日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 7 F 19/00				
G 0 6 F 19/00				
			G 0 7 D 9/ 00	4 7 6
			G 0 6 F 15/ 30	H
			G 0 6 F 15/ 30	A
		審査請求 未請求 請求項の数1	OL (全 12 頁)	最終頁に続く

(21)出願番号                      特願平6-83058

(22)出願日 平成6年(1994)4月21日

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72)発明者 石黒 章介

新潟県北蒲原郡中条町大字富岡46番地 1

株式会社日立製作所産業機器事業部内

(72)発明者 大西 健

新潟県北蒲原郡中条町大字富岡46番地 1

株式会社日立製作所産業機器事業部内

(72)発明者 安倍 博之

新潟県北蒲原郡中条町大字富岡46番地 1

株式会社日立製作所産業機器事業部内

(74)代理人 弁理士 秋本 正実

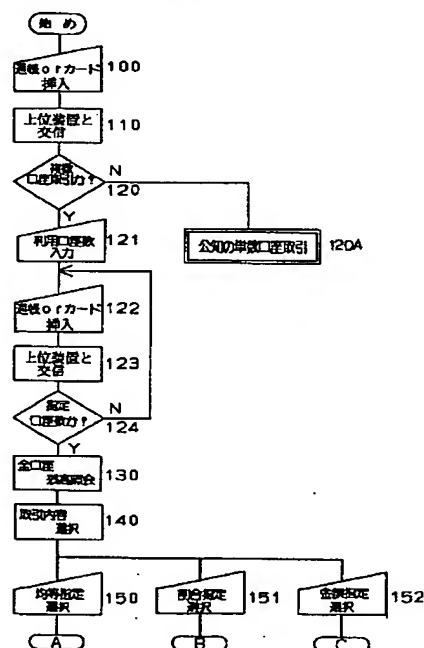
(54) 【発明の名称】 現金自動取引装置

(57) 【要約】

【目的】 複数の銀行口座であっても、同時に扱うことができる。

【構成】 一つの口座から他の複数の口座への振込、複数の口座から他の一つの口座への引き出しを一取引で同時に一括的に行うことができるばかりでなく、複数の口座間での振込や預入、支払いも一取引で同時に一括的に行うことができるので、従来技術のように複数の口座間での取引をいちいち何回もやり直すと云う手間を省くことができ、利用者に対する時間短縮を図ることができる。

[ 3 ]



**BEST AVAILABLE COPY**

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 挿入されたカード若しくは通帳のデータに基づいて取引し、かつ上位装置とオンラインで可動する現金自動取引装置において、オンライン接続されている複数の銀行口座間で互いに預入と支払と振込とを一取引で一括的に実行させる制御部を有することを特徴とする現金自動取引装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、金融機関等のオンラインシステムにおいて、カード或いは通帳等により取引を行う現金自動取引装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来技術の現金自動取引装置にあっては、カードを用いることにより、残高照会した後、支払い取引を継続的に行えるもの、或いは残高照会した後、振込も継続的に行えるものなどが種々提案され、実用に供されている。なお、従来技術に関するものとして、特開昭 61-39186 号公報等が挙げられる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上記従来技術では、カード或いは通帳等を用いることにより、複数の取引を行えるようになっているものの、それらは同一の銀行口座に基づいて行うものであり、従って、複数の銀行口座を同時に取り扱った状態で、残高照会、支払い、預入れ、振込み等の取引を行うことができない不具合がある。即ち、複数の銀行口座を取扱おうとすると、最初からいちいちやり直さなければならないので、取引操作がそれだけ複雑になりある。

【0004】本発明の目的は、上記従来技術の問題点に鑑み、複数の銀行口座であっても、同時に扱うことができると共に、その取扱操作を簡単に行うことができ、以て利用者の操作性を向上し得る現金自動取引装置を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の現金自動取引装置においては、オンライン接続されている複数の銀行口座間で互いに預入と支払と振込とを一取引で一括的に実行させる制御部を有することを特徴とするものである。

## 【0006】

【作用】本発明では、上述の如く、オンライン接続されている複数の銀行口座間で互いに預入と支払と振込とを一取引で一括的に実行させる制御部を有するので、該制御部により、一つの口座から他の複数の口座への振込、複数の口座から他の一つの口座への引き出しを一取引で同時に一括的に行うことができるばかりでなく、複数の口座間での振込や預入、支払いも一取引で同時に一括的に行うことができるので、従来技術のように複数の口座間での取引をいちいち何回もやり直すと云う手間を省くことができ、利用者に対する時間短縮を図ることができ

る。

## 【0007】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図 1 乃至図 9 により説明する。図 1 乃至図 9 は本発明による現金自動取引装置の一実施例を示している。図 1 及び図 2 において、1 は図示しないカード及び通帳を用いて取引を行う現金自動取引装置（以下、単に装置と略称する）。2 は装置 1 内の紙幣を放出したり、利用者からの紙幣を取り込む紙幣入出力機構。3 は硬貨入出力機構であり、紙幣入出力機構 2 とほぼ同様の機能をなす。4 は顧客操作部であり、CRT 或いは液晶等からなるディスプレイの画面上に利用者が触れることによりタッチパネル方式で所望の操作を行えるように構成されている。この場合、ディスプレイ画面上には操作内容が誘導表示され、利用者は該誘導表示された内容に従ってタッチパネル方式で操作することができる。この顧客操作部 4 については図 6 乃至図 9 を用いて後述する。5 は挿入されたカードを装置内部に取り込み、かつ該カードを装置内部から放出するカード機構であり、該カード機構 5 は、複数の口座間での取引が可能となるよう、複数のカードを順次取り込んでそのデータを照合したり、必要なデータを書き換えるように構成されている。6 はカードの場合と同様に挿入された通帳を順次装置内部に取り込み、かつ該通帳を装置内部から順次放出する通帳機構であり、カード機構と同様に複数の口座間での取引が可能となるよう、複数の通帳を取り込んでそのデータを照合したり、必要なデータを書き換えるように構成されている。9 は上位装置 7 と回線制御部 8 を介し接続された制御部であり、上記各機構 2 ～ 6 を制御することにより、後述の如き種々の取引を行う。なお、上位装置 7 は図示していない他の銀行とオンライン接続されている。図 2 において、9A は装置 1 の電源部、9B は制御部 9 によって制御される他のデバイスである。

【0008】そして、前記制御部 9 は、一つの口座に基づいて他の銀行口座と取引することができる他、複数の銀行口座間での取引が実行し得るよう構成されている。即ち、制御部 9 は、複数の口座間で取引を実行する場合には、顧客操作部 4 に表示される内容を次のように変更し、その変更した内容に基づいて利用者が操作することにより行う。その際、顧客操作部 4 には複数の口座間の取引の初期画面として、図 6 に示すように、夫々の所定位置に取引内容選択エリア 10 と、口座データ表示エリア 11 と、利用者操作エリア 12 と、取引確認操作エリア 13 との領域をもって表示される。

【0009】前記取引内容選択エリア 10 には、均等指定ボタン 14、割合指定ボタン 15、金額指定ボタン 16、取消ボタン 17 が設けられている。均等指定ボタン 14 は、取引をした後の最終的な各口座の残高を均等にするためのものである。そして、残高の平均金額がおおよそ各口座の引き落とし金額を越えるほどの金額に余裕

があると判断され、各口座に均等に振込みを行いたいときに利用することができる。割合指定取引ボタン15は、取引をした時点での最終的な各口座の残高を配分するもので、その配分割合を利用者によって決定するものである。例えば、利用者が各口座の残高を見比べたとき、かつ各口座の合計金額を見たとき、おおよその合計金額の割合で夫々の口座に割り振るようにし、これにより、引き落とされたときに余裕のない金額となることがないようにするものであり、口座の細かい金額には拘らない場合に利用することができる。金額指定取引ボタン16は、利用者が取引金額を入力することによって取引後の残高を配分するものである。例えば、利用者が各口座の残高を見比べたとき、取引前までの各口座の何れかの残高が、引き落とされたときに余裕のない金額となる場合、また細かい金額に拘りたい場合、さらに不足するので入金を行いたい場合、またさらにはある程度引き出しを行いたい場合に利用することができる。なお、取消ボタン17は、上記各ボタン14～16によって指定した内容を取り消すためのものである。

【0010】前記口座データ表示エリア11には、利用者が取引を行おうとする銀行名、口座、その口座の残高等を表示するためのものである。例えば利用者が図6に示す如くA、B、Cからなる三つの口座間で取引を行おうとすると、口座記号Aとして、まず銀行名を表示するための銀行名表示部18と、その銀行の口座名を表示するための口座名表示部19とが上に設けられると共に、その下段に取引前の残高（即ち、これから取引しようとする現時点での残高）を表示するための口座残高表示部20と、取引後の残高を表示するための取引後口座残高表示部21とが設けられている。なお、口座記号B及びCとしても、口座記号Aの場合と同様に表示されている。またこの口座データ表示エリア11には、ディスプレイ上の初期画面では上述した各表示部18～21以外は何も表示されていないが、利用者が均等指定ボタン14と割合指定ボタン15と金額指定ボタン16との何れかを操作するか否かによって次に表示される内容が変わってくる。即ち、利用者が均等指定ボタン14を操作した場合には、図7(a)に示すように、銀行名表示部18、口座名表示部19、口座残高表示部20に必要データが表示された状態となり、取引後口座残高表示部21には何のデータも表示されない状態となる。この場合、口座記号Aとしての銀行名表示部18、口座名表示部19、口座残高表示部20には、図3において処理100にて行われた一番最初に挿入のカード（或いは通帳）に対応するデータを表示すれば、利用者が容易に識別をすることができる。従って、口座記号A～Cには、順次挿入されたカード及び通帳のデータを順次表示することが好ましい。割合指定ボタン15を操作すると、図8に示すように、各口座に対応し、利用者によって入力された割合を表すための割合表示部28が表示されると共に、

その下段に、取引の合計金額を表す合計金額表示部27が表示されるようにしている。また、利用者が金額指定ボタン16を操作すると、図9に示すように、各口座に対応し、利用者によって取引された金額を表す取扱金額表示部31が表示されるようにしている。

【0011】前記利用者操作エリア12ではディスプレイ上の初期画面では何も表示されていないが、利用者が均等指定ボタン14と割合指定ボタン15と金額指定ボタン16との何れかを操作するか否かによって次に表示される内容が変わってくる。即ち、利用者が均等指定ボタン14を操作すると、図7に示すように何も表示しないが、利用者が割合指定ボタン15を操作すると、図8に示すように、口座記号A～Cを選択することによって対応する口座を選択する口座選択ボタン23と、後述するように各口座間に対する割合を入力する数字ボタン24と、取消ボタン25と、確認ボタン26とが表示されるようにしている。また、利用者が金額指定ボタン16を操作すると、図9に示すように、上述の如き割合指定取引の場合と同様に口座選択ボタン23、数字ボタン24、取消ボタン25、確認ボタン26とが表示する他、入金であることを表す入金ボタン29と、出金であることを表す出金ボタン30とが表示されるようにしている。

【0012】前記取引確認操作エリア13は、初期画面上では終了ボタン22のみ表示されているが、これも利用者操作エリア12の場合と同様、利用者が均等指定ボタン14と割合指定ボタン15と金額指定ボタン16との何れかを操作するか否かによって次に表示される内容が変わってくる。即ち、利用者が均等指定ボタン14を操作すると、図7に示す如く、終了ボタンを操作する文言が表示され、これと同様のことが、図8に示すように割合指定ボタン15を操作しても表示されるようにしている。一方、利用者が金額指定ボタン16を操作すると、図9に示すように、上述の如き文言が表示される他、引き出し金額表示部32と、預入れ金額表示部33とが表示されるようにしている。

【0013】このような表示内容は、利用者が複数の各口座に対しどのような取引を行うかに応じて種々に変更可能になっており、これが制御部9によって制御される。

【0014】実施例の現金自動取引装置における制御部9の具体的動作を次に述べる。

【0015】まず図3に示すように、利用者によってカードが装置1のカード機構5の挿入口に挿入されると（100）、挿入されたカードに基づきカード機構5が銀行名、口座番号、暗証番号等を読み取り、そのデータを制御部9が回線制御部8を介し上位装置7に送信し、該上位装置7がそのデータに応じ銀行名、口座番号等のデータを取得し、確認した後、その取得したデータが制御部9に送信される（110）。この場合、利用者によ

って通帳が通帳機構6の挿入口に挿入されても、通帳機構6が銀行名、口座番号等を読み取ることにより、上述と同様にして制御部9と上位装置7とが交信することとなる。次に、制御部9は、利用者が顧客操作部4のディスプレイ上に複数口座の取引であるか否かをチェックする(120)。その結果、利用者が複数口座の取引でなく、一つの口座の取引である場合には、公知の単数口座取引を実行するが(120A)、利用者が複数口座の取引を選択すると、制御部9は、次の処理を実行する。即ち、制御部9は、まず利用者に対し、ディスプレイを介し利用口座数を入力するガイダンスを表示させる。そして、その表示に従い利用者が所望の利用口座数を入力した後(121)、利用者が取引を行おうとすべき複数のカード(或いは通帳)を再び順次挿入すると、制御部9は、順次挿入された複数のカードに基づいて再び上位装置7と交信し(123)、銀行名、口座番号等のデータを取得しかつ確認した後、ディスプレイを用いて表示することにより、指定された口座数か否かを利用者に確認させる(124)。

【0016】その結果、利用者は自分が指定した口座数と違う場合は、制御部9により122以降の処理を繰り返し実行し、利用者が自分の指定した口座数と一致すると、制御部9が顧客操作部4のディスプレイ上に、利用者によって指定された口座の全ての数を図7(a)に示す如く表示させる(130)。このとき、それまでは図6に示す如き初期画面として、ディスプレイ上の所定位置に取引内容選択エリア10と、口座データ表示エリア11と、利用者操作エリア12と、取引確認操作エリア13との領域をもって表示され、口座データ表示エリア11内の銀行名表示部18、口座名表示部19、口座残高表示部20には何も表示されていない状態を示したが、124の処理結果がYのときには、前記各表示部18~20には現在の残高が表示されることとなる。そして、利用者が各口座の残高を確認した後、取引内容選択エリア10内から、何れの取引を希望するかを選択する。以下、利用者が均等指定取引を選択した場合について述べる。

【0017】即ち、利用者が図3において均等指定ボタン14を操作すると(150)、制御部9は図4に示すA以降の処理を実行し、まず各口座の残高の合計金額を求め(200)、次いで各口座に対する平均金額を求めた後(210)、その平均金額を取引後口座残高表示部21に図7(b)に示す如く各口座毎に表示する(220)。この実施例では、万円単位の平均金額であるので、それより下の単位の端数は切り捨ての処理を行うが、千円単位にすることもできるのは勿論である。これにより、三つの各口座間で振込取引が実行された形態となる。即ち、結果的には口座記号A、Bの各口座に対し口座記号Cの口座から一万円が夫々振り込まれたこととなる一方、口座記号Cの口座には口座記号A、Cの各口

座から一万円ずつ引き出されたこととなり、三者間での取引を一括的に行うことができる。その後、図5のDに示す如く、利用者が取引後口座残高表示部21の内容を確認し、取引確認操作エリア13の終了ボタン22を操作すると(230)、制御部9は、そのデータに従い上位装置と交信すると共に、該上位装置がそのデータを各銀行に対し夫々の口座毎に交信する(240)。そして、制御部9は、取引内容を印字した明細票、カード(或いは通帳)を装置1外に放出し(700)、また上位装置との交信を停止することにより(710)、取引を終了する。その場合、放出された明細票は各口座毎に印字して放出される。なお、利用者は取引後口座残高表示部21に表示された金額を見て取消を行いたい場合には、取引内容選択エリア10内の取消ボタン17を操作することにより、均等指定取引を取り消すことができる。

【0018】次に、利用者が割合指定取引を選択した場合について述べる。即ち、利用者が図3において割合指定ボタン15を操作すると(151)、制御部9は図4に示すB以降の処理を実行し、まず各口座の合計金額を求め(300)、その後顧客操作部4のディスプレイ上において図8に示す如く口座データ表示エリア11内に、求めた合計金額の入っている合計金額表示部27を表示する(310)。この場合、ディスプレイ上では、均等指定取引の場合に加え、口座データ表示エリア11内に割合表示部28の空欄が表示される一方、利用者操作エリア12内に確認ボタン26の他、口座選択ボタン23、数字ボタン24、取消ボタン25が追加して表示される。そして、利用者は、合計金額表示部27に表示された金額を確認することにより、各口座に割り振る金額の割合を決定し、各銀行口座を口座選択ボタン23により操作すると共に(320)、その各銀行口座に対して上記選定した割合の数値を数字ボタン24により操作し(330)、その各口座に対応した数値が夫々表示されたときに確認ボタン26を操作して入力する。ここで、入力した内容が不適切な場合、利用者は取付ボタン25を操作することにより訂正することができる。そのため、制御部9は、確認ボタン26と取消ボタン25との何れかが操作されたかをチェックし(340)、確認ボタン26が操作された場合には340以降の処理を実行し、また取消ボタン25が操作されたときには320、330、340の処理を繰り返し実行することとなる。従って利用者は、図8において、口座選択ボタン23でAの位置を押した後、数字ボタン24で6と0の位置を押す、また口座選択ボタン23でBの位置を押した後、数字ボタン24で3と0の位置を押す、さらに口座選択ボタン23でCの位置を押した後、数字ボタン24で1と0の位置を押すことにより、図示の如く表示される。上述の如く、利用者によって各口座毎に割合が入力され、確認されると、制御部9は、その割合に基づいて

各口座毎の取引金額を求め(350)、求めた金額を図8に示すように口座データ表示エリア11内の取引後口座残高表示部21に表示する(360)。そして、利用者がその表示された金額を確認し、図5のEに示す如く、終了キー22を押すと、制御部9は、均等指定取引の場合と同様にして380、700、710の処理を行うことにより終了する。

【0019】さらに、利用者が金額指定取引を選択した場合について述べる。即ち、利用者が図3において割合指定ボタン16を操作すると(152)、制御部9は図4に示すC以降の処理を実行する。その際、顧客操作部4のディスプレイ上においては、図9に示す如く口座データ表示エリア11内に銀行名表示部18、口座名表示部19、口座残高表示部21、取引後口座残高表示部21の他、取扱金額表示部31の空欄が新たに追加表示され、利用者操作エリア12内に口座選択ボタン23、数字ボタン24、取消ボタン25、確認ボタン26の他、入金ボタン29、出金ボタン30が表示され、また取引確認操作エリア13内に引き出し金額表示部32、預入金額表示部33が追加表示される。その後、利用者が顧客操作部4のディスプレイ上において、各銀行の口座に対し、図4のCに示す如く利用者操作エリア12内の口座選択ボタン23で操作することにより選択し(400)、また入金ボタン29と出金ボタン30との何れかを操作すると共に、取り扱う金額を数字ボタン24で操作することにより金額を入力すると(410)、その入力した金額が口座データ表示エリア11内の取扱金額表示部31に表示される(420)。ここで、利用者は入力した内容が不適切なときには取消ボタン25を操作して再びやり直し、適切な場合には確認ボタン26を操作することにより、取扱金額入力終了する。

【0020】一方、制御部9は、取扱金額が入力されると、その取扱金額に基づいて取引金額を求め(430)、求めた金額を取引後の残高として取引後口座残高表示部21内に表示する(440)。即ち、利用者が各口座毎に取扱金額を入力する度に直ちに取引後の残高を表示する。そして、利用者による各口座毎の取扱金額が全て入力され、かつ確認ボタン26が操作されると(450)、制御部9は、取扱金額を累計し(460)、その累計金額を引き出し金額表示部32と預入金額表示部33との何れかに対応させて表示する(470、471または472)。この場合、累計金額が預入となるときには図4において471の処理を実行し、累引き出しとなるときには同図において472の処理を実行する。以下、本例では図9に示す如く預入となるので、預入の場合について説明すれば、図5のFに示すように、利用者がこの金額を確認し、終了キー22を操作すると(500)、制御部9は、利用者に対し紙幣入出力機構2を介し入金のために動作させる。その後、紙幣投入口(符号せず)に対し利用者が累計金額に相当する紙幣を入金す

ると(510)、制御部9は、入金されたことを確認した後、均等指定取引及び割合指定取引の場合と同様にして上位装置と交信し、かつ各銀行口座に連絡し(520)、しかる後700、710の処理を行うことにより終了する。前記累計金額が支払いとなった場合、利用者が確認すると(600)、制御部9は、紙幣入出力機構2を介しその金額を放出し(610)、その後、同様にして上位装置と交信し(620)、700、710の処理を行うことにより終了する。

10 【0021】この実施例によれば、一つの口座から他の複数の口座への振込、複数の口座から他の一つの口座への引き出しを一取引で同時に一括的に行うことができるばかりでなく、複数の口座間での振込や預入、支払いも一取引で同時に一括的に行うことができるので、従来技術のように複数の口座間での取引をいちいち何回もやり直すと云う手間を省くことができ、利用者に対する時間短縮を図ることができる。また、複数の口座間での取引時、それら各口座を顧客操作部4のディスプレイ上において銀行名、口座名を口座データ表示エリア11内に同時に表示でき、しかも口座データ表示エリア11内にその時点での残高が表示されるので、複数の口座間での取引内容が一目瞭然となり、利用者が複数の取引であっても紛らわしさを感じるおそれがない。さらに、各銀行口座毎に残高が表示されると、従来技術のように残高照会により予め各口座の残高をいちいち確認しなければならないと云うことが不要になり、それだけ操作を簡便化することができる。そして、複数の口座間での取引時、均等指定取引と割合指定取引と金額指定取引とに分けておいた場合、利用者の必要とする機能を任意に選択できるので、特に均等指定取引及び割合指定取引が必要となる利用者にとっては極めて有益である。

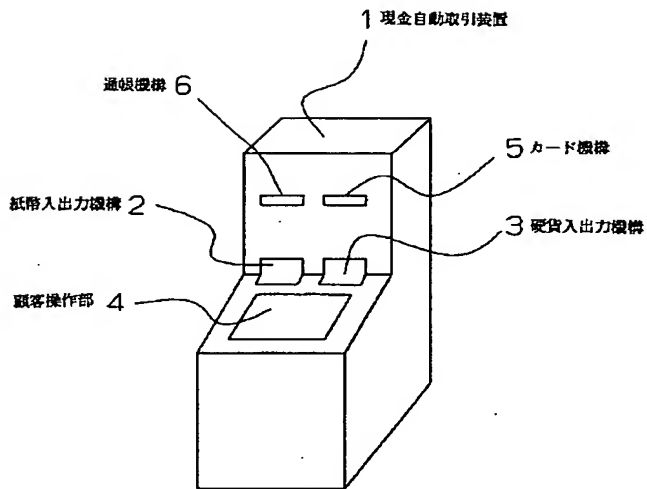
30 【0022】なお図示実施例では、三つの銀行口座間で取引するため、口座データ表示エリア11内に三つの銀行口座全てを一緒に表示し得た例を示したが、例えば、特定以上の数の銀行口座間で取引を行う場合であって、かつ口座データ表示エリア11のスペースの関係から、該エリア11内に全ての数の銀行口座が表示し得ない場合には、残りの表示されない銀行口座が、図示しない切換スイッチ等を切換操作することによって表示されるようにしてもよい。そのため、カード機構5及び通帳機構6にはより多くの数のカード或いは通帳が挿入されても、それらに対応すべく構成することが望ましい。また図示実施例では、取引終了時、その取引内容が明細表(通帳)に印字されるが、その印字内容は、均等指定取引と割合指定取引と金額指定取引とに応じ以下の通りとする。即ち、均等指定取引の場合、制御部9は、均等指定ボタン14が押下されたときに、どの口座からどの口座に金額がどれだけ動いたかを判断する。その際、種々の方法があるが、以下のイ)～ホ)の条件に基づいて処理する。

イ) 制御部9にて全口座の平均値を算出する。  
 ロ) 各口座の取扱金額を算出する。  
 ハ) 各口座のうち、平均値より多い口座を認識する。  
 ニ) 平均値より多い口座のうち、アルファベット順の先の方から、各口座への振込を優先する。  
 ホ) ある口座への振込金額が足りなくなったとき、次の平均値の多い口座から振込を行う。  
 例えば、取り扱う口座が5口座の場合が以下のとき、  
 A 残高 50,000→25,000  
 B 残高 6,000→25,000  
 C 残高 16,000→25,000  
 D 残高 50,000→25,000  
 E 残高 3,000→25,000  
 制御部9の取引内容の判断は、A口座からB口座へ19,000振込むと共に、A口座からC口座へ6,000振込み、またD口座からC口座へ3,000振込むと共に、D口座からE口座へ22,000振込むこととなり、その内容が明細表に印字される。  
 【0023】割合指定取引の場合、制御部9は、以下のイ)～ニ)に基づいて処理する。  
 イ) 各口座の取扱金額を算出する。  
 ロ) 残高が取引後口座残高表示部より多い口座を認識する。  
 ハ) 残高が取引後口座残高表示部より多い口座のアルファベット順の先の方から、各口座への振込を優先する。  
 ニ) ある口座への振込金額が足りなくなったとき、次の残高が取引後口座残高表示部より多い口座から振込を行う。  
 【0024】このイ)～ニ)に基づいて処理された内容が印字される。また金額指定取引の場合、制御部9は、累計金額を計算し、該累計金額がプラスかマイナスかを認識することにより、処理する。そして、累計金額がプラスのときには、  
 イ) 累計金額を優先して各口座(アルファベット順)への振込を優先する。  
 ロ) 取扱金額がマイナスとなる口座のアルファベット順から、各口座への振込を優先する。  
 ハ) ある口座への振込金額が足りなくなったとき、次の残高が取引後口座残高表示部より多い口座から振込を行う。  
 一方、累計金額がマイナスのときには、  
 ニ) 累計金額を優先して取扱金額がマイナスの口座のアルファベット順から、引き出しを優先する。  
 ホ) 取扱金額がマイナスの口座のアルファベット順から、各口座への振込を優先する。

ヘ) ある口座への振込金額が足りなくなったとき、次の残高が取引後口座残高表示部より多い口座から振込を行う。  
 従って、プラスかマイナスかに応じ、以上のイ)～ハ)とニ)～ヘ)の何れかで処理した内容が印字される。  
 【0025】  
 【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、オンライン接続されている複数の銀行口座間で互いに預入と支払と振込とを制御部により一取引で一括的に実行させるように構成したので、一取引で複数の口座への振込や、複数の口座からの引き出しを同時に行うことができるばかりでなく、複数の口座間での振込や預入を確実に行うことができる結果、従来技術のように複数の口座間での取引をいちいち何回もやり直すと云う手間を省くことができ、利用者に対する時間短縮を図ることができる結果、利用者に対するサービスを大幅に向上させることができる効果がある。  
 【図面の簡単な説明】  
 【図1】本発明による現金自動取引装置の一実施例を示す外観斜視図。  
 【図2】同じく現金自動取引装置の各機構部を示すブロック図。  
 【図3】利用者が均等指定取引と割合指定取引と金額指定取引とを選択するまでを示す制御部の制御動作のフローチャート。  
 【図4】均等指定取引と割合指定取引と金額指定取引との制御動作を示すフローチャート。  
 【図5】利用者が均等指定取引と割合指定取引と金額指定取引とに応じ必要データを入力し終えた後の制御動作を示すフローチャート。  
 【図6】複数銀行口座間で取引する場合に顧客操作部のディスプレイ上に表示された初期画面を示す説明図。  
 【図7】均等指定取引時において利用者が取引データを入力する前の顧客操作部のディスプレイを示す説明図(a)、利用者が取引データを入力し終えた後の顧客操作部のディスプレイを示す説明図(b)。  
 【図8】割合指定取引時における顧客操作部のディスプレイを示す説明図。  
 【図9】金額指定取引時における顧客操作部のディスプレイを示す説明図。  
 【符号の説明】  
 1…現金自動取引装置、2…紙幣入出力機構、3…硬貨入出力機構、4…顧客操作部、5…カード機構、6…通帳機構、9…制御部。

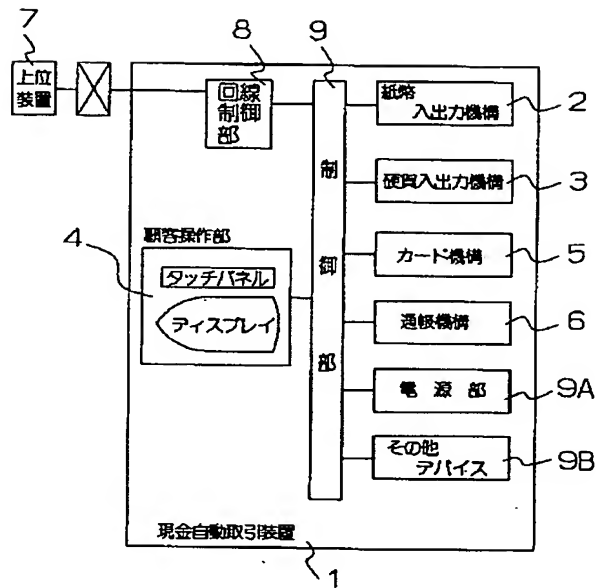
【図1】

【図1】



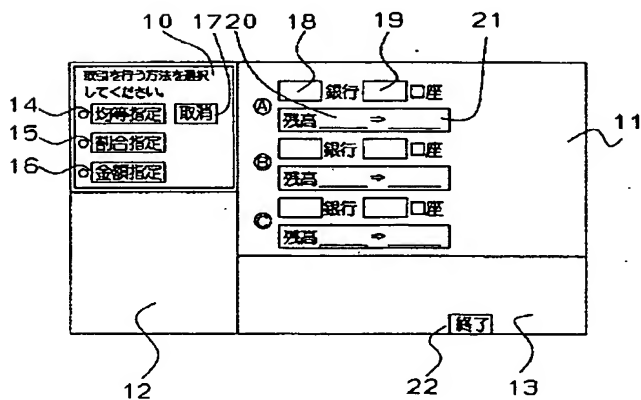
【図2】

【図2】



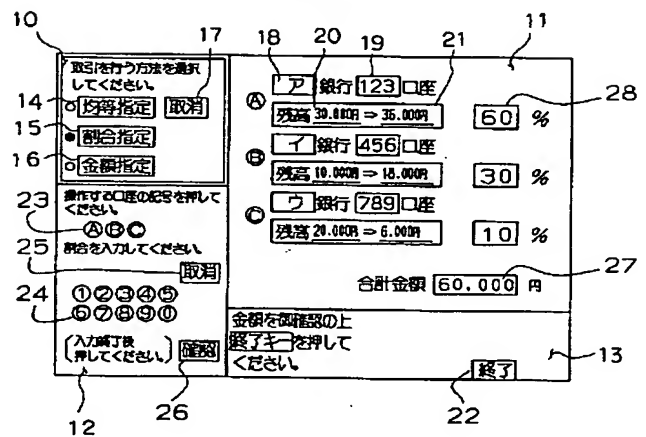
【図6】

【図6】



【図8】

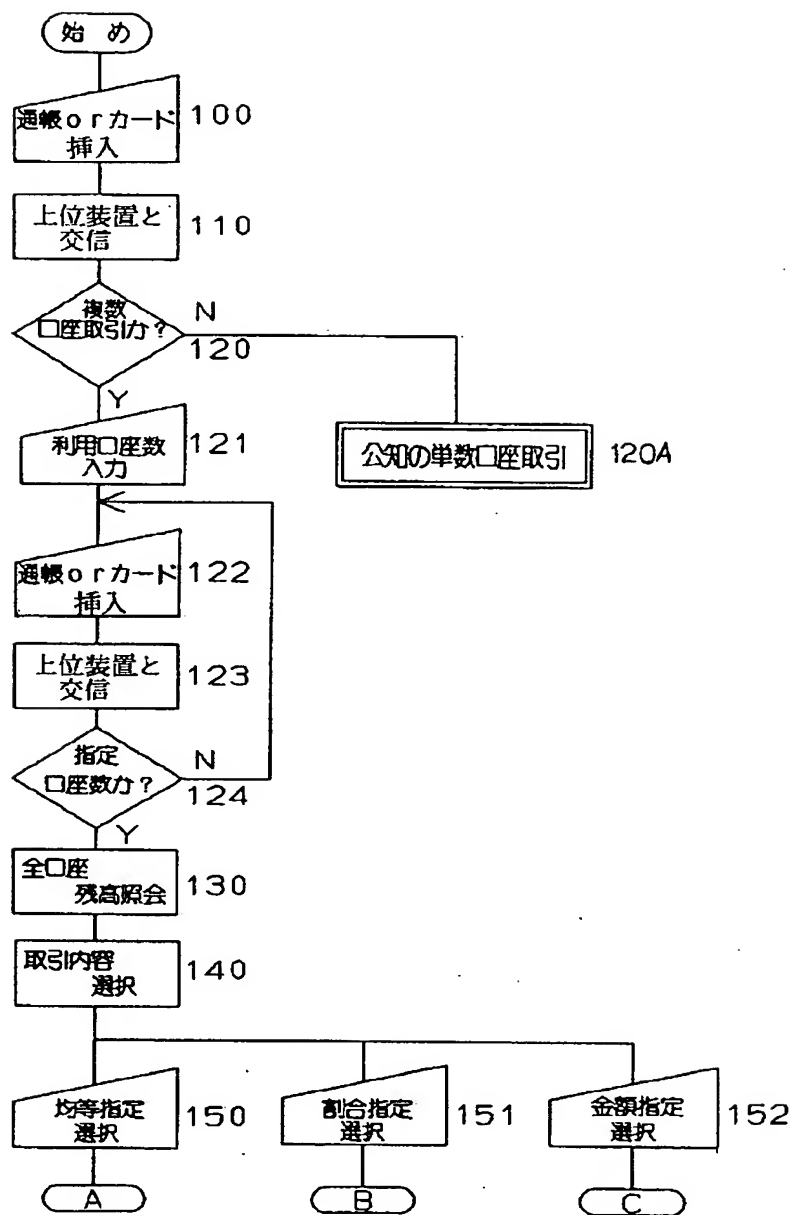
【図8】





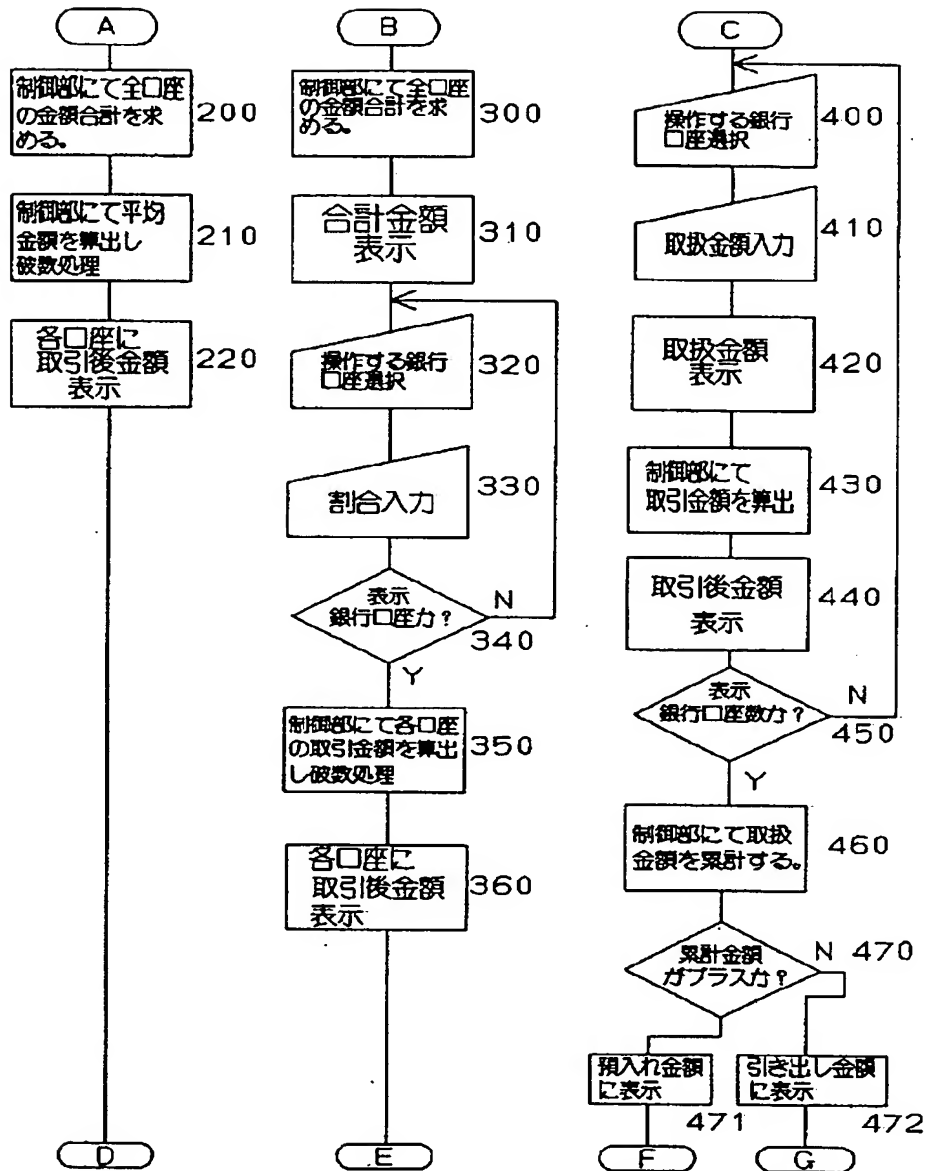
【図3】

[ 図3 ]



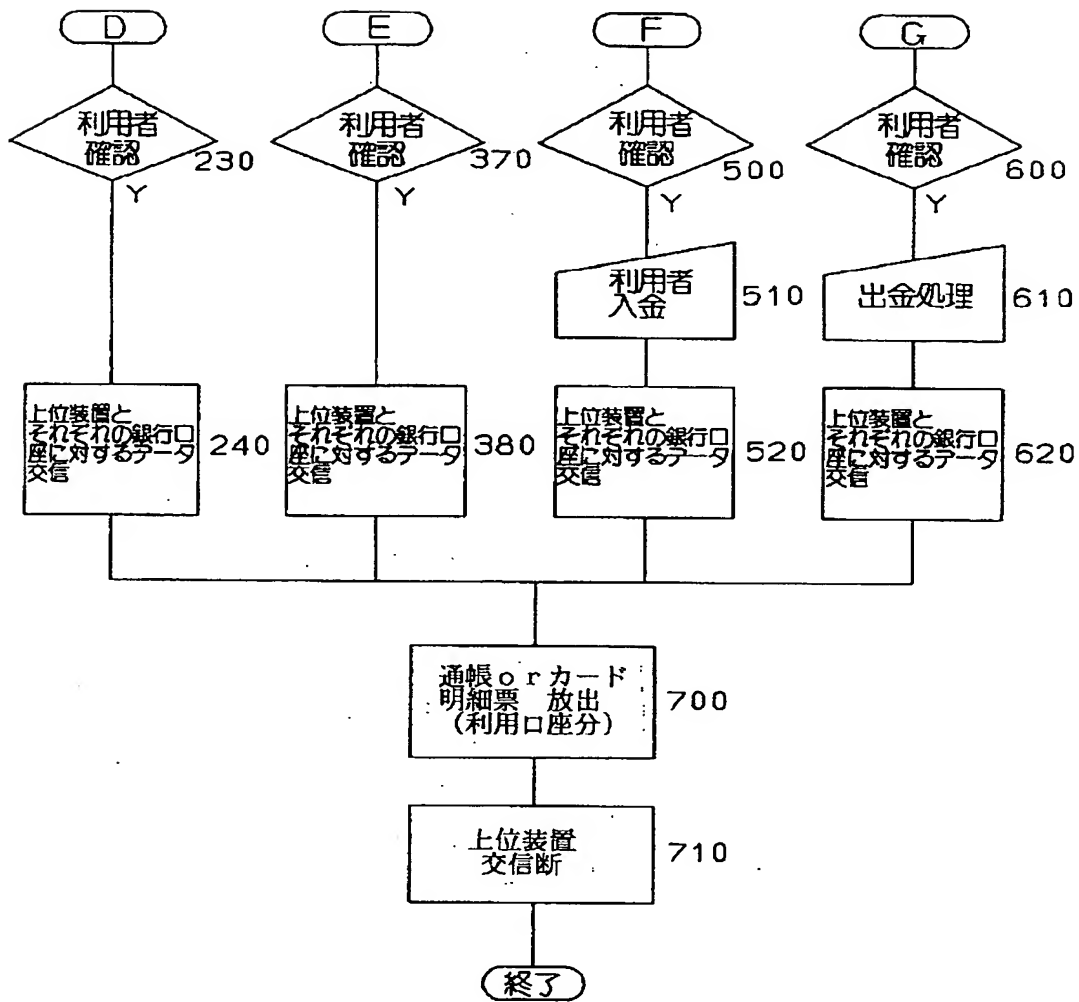
【図4】

[ 図4 ]



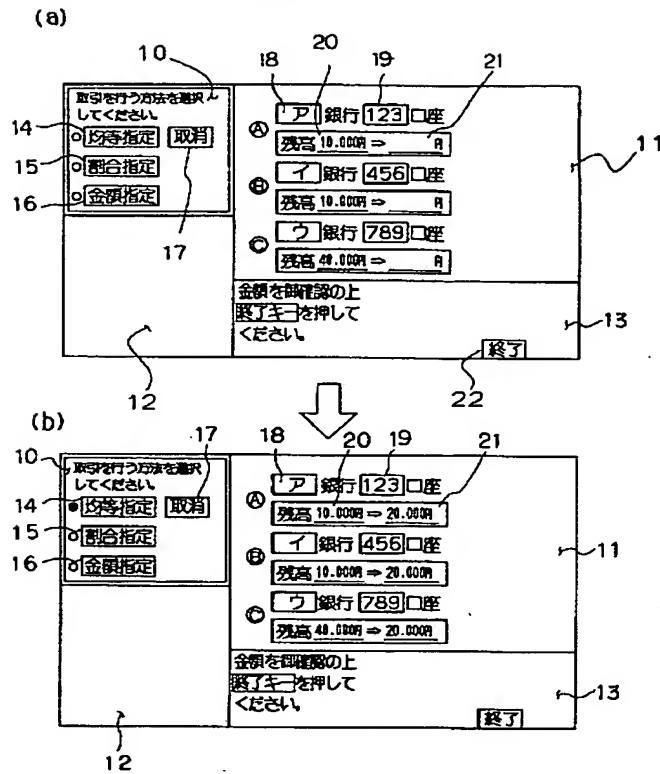
【図5】

[ 図5 ]



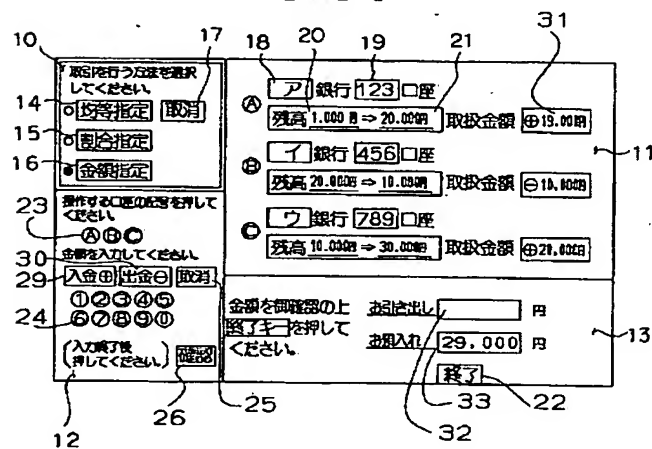
【図7】

【図7】



【図9】

【図9】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

弁内整理番号

F I

技術表示箇所

3 6 0